

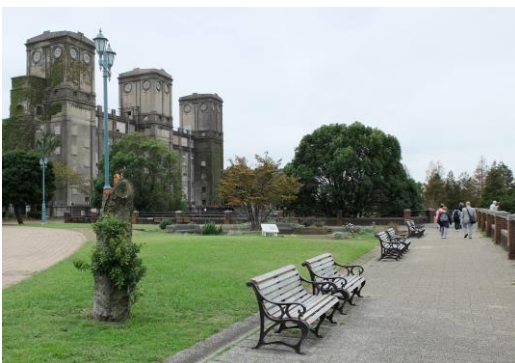
## 少し長めの自己紹介

発表者：中澤会員

美術好きが多い原三溪市民研究会においても特に近現代の日本の作家に明るい中澤会員から、百貨店の美術部での仕事や、そこから見てきた三溪との接点についてお話しがありました。

百貨店に入社する前に、東京国立近代美術館平櫛田中の回顧展に行った時のこと、見知らぬ人物から「作者の考えを思っただけで見たい」と話しかけられ、彫刻を見る向きなどを聞いていたら、あとでその人物が作家本人だったと分かったそうです。そのエピソードがきっかけで、入社後は一貫して美術部の仕事をしています。百貨店で企画展を開催するときは、画商を通さずに作家に制作を依頼するので、社員は作家と直接の付き合いがあります。仕事で扱った作家が、三溪と関わりを持っていたことが分かることも。

三溪は古美術を収集するだけでなく、同時代の新進の画家たちを支援しました。これは、現在の企業が社会貢献として芸術活動や芸術家を支援する思想の先駆的事例なのではないか、ということを含めて今後考えていきたいそうです。



2018年10月13日、根岸森林公園にて

## 本牧まち歩きツアーの報告

報告者：久保会員

2018年10月13日に開催した第3回本牧まち歩きツアー『描かれた本牧・根岸を歩く』を写真のスライドショーで振り返りました。明治の賑わいの跡をしのび、大正・昭和の文化財に触れ、最新のロボットと遊ぶという盛沢山なツアーでした。

## シンポジウムのアンケート集計報告

報告者：南屋会員

2018年11月10日に開催した第5回シンポジウム「原三溪—その生き方を考える」のアンケート集計結果が南屋会員から報告されました。自由記述欄によると廣島会長の発表が好評でした。